

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	J01
プログラム名称	統合物質科学リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	小関 敏彦	プログラムコーディネーター	川崎 雅司

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、物理学・化学・材料科学・電子工学分野において、異分野科目や俯瞰講義等のコースワーク及び学生の自主性・自発性を尊重した自発融合研究、長期海外派遣、企業等インターンシップ、コロキウム等のトレーニングワークにより、俯瞰力と高度の専門性を備えたリーダー養成のプログラムが構築されていると評価できる。プログラムコーディネーター・担当者間の緊密な連携及び研究科・専攻の協力・支援により、カリキュラムや授業内容・形態を柔軟かつ積極的に改善することにより、当初計画を超えて優れたプログラムを確立したことは高く評価できる。その結果、自主・自立性に富み、グローバルに活躍できる優秀な人材が育っていることが認められる。また、複数指導教員制が分野の枠を超えた教育・研究環境を学生に提供するとともに、教員間の連携を促進したことは評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、高度な専門性ととも広い視野・俯瞰力、行動力を有し、多様なセクターで活躍できる人材が育っていると評価できる。修了者は、産業界（約 48%）、アカデミア（約 47%）、行政等（約 5%）にバランスよく就職し、海外企業や起業に挑戦する修了者・履修生が出ていることは、国内外企業のオンサイトでの特別講義など本プログラムの様々な取組・工夫の成果として高く評価できる。課題解決型グループワークとして取り組むコロキウムが、アウトリーチ活動を目指したグループによる高校生向けのサイエンス模擬講義の実施、インターネットの最先端科学記事解説サイト「BuzzScience」の開設など完成度の高い成果を生み出していることは特筆に値する。

事業の定着・発展については、本プログラムのほぼ全てを継承した理工連携の「統合物質科学国際卓越大学院」を開設し、コース生の受け入れ等の試行を始めていることは評価できる。また、支援期間終了後も、現状と同額程度の奨励金及びほぼ同規模の海外長期派遣・海外武者修行・自発融合研究等のカリキュラムを実施する計画となっていることは評価できる。大学全体として多様な財源を確保しつつ、修士・博士一貫の分野横断型学位プログラム「国際卓越大学院」の整備を進めていることは評価できる。